

「続く」を支える。

ヤマタネ

2024年3月期 第2四半期

決算説明資料

2023年11月29日

株式会社ヤマタネ（証券コード：9305）

INDEX

1	企業価値向上に向けて	… P2
	－「ヤマタネ2025プラン」の進捗	… P2
	－ 企業価値向上に向けた取り組み状況	… P6
2	2024年3月期第2四半期 決算概要	… P11
3	2024年3月期 決算見通し	… P22

「ヤマタネ2025プラン」の進捗状況① – 概要

ヤマタネ2025プラン

創業100周年に向けて、豊かな社会づくりにチャレンジしていく

- 1 「チャレンジ領域」と「コア事業領域」に分け、経営資源を適切に配分し規模を最適化する
- 2 環境に配慮した事業活動を推進し、社会に安心と安全、効率性を提供する
- 3 これまで築いてきた資本(財務、製造、知的、人的、社会関係、自然)を基盤に、長期的な展望に基づいた事業展開を行う

財務目標 ROE 5%以上 配当性向 35%以上 売上高 565億円 営業利益 32億円 EBITDA 66億円

チャレンジ領域

物流部門

- 新たな事業領域への進出のため、食品量販店センター運営等に取り組む

食品部門

- 気候変動リスクや消費者ニーズの変化を踏まえ、新たな品種や商品の開発に着手する

情報部門

- 棚卸機器レンタルのノウハウが詰まったスマホ用棚卸アプリを提供し、幅広い顧客の棚卸ニーズに応える

不動産部門

- 倉庫業併営を生かして物流不動産等の仲介ビジネスを強化する

管理部門

- 本社が所在する越中島地区の再開発の方向性をまとめる

コア事業領域

物流部門

- 荷主やサプライチェーン上の各プレイヤーと連携・協業し、物流の効率化や高度化を目指す
- 収益力向上のため、新倉庫の開設や既存倉庫のリプレースを行う

食品部門

- 米流通の各段階において品質と安全性を保ち、安心できる商品を消費者に対して安定的に供給する
- 生産・流通コストの低減を追求し、産地との結びつきを強化する

情報部門

- DXに必要な技術を提供するパートナーとして、幅広い高度なITスキルを有する技術者を育成して顧客に供給する

不動産部門

- 所有物件の品質(安全性、利便性、快適性、環境性)を高め、不動産価値を向上させる
- 不動産管理をクラウドデータベースによって効率化し、プロパティマネジメント領域のビジネスを拡大する

管理部門

- 教育・研修などの人的資本への投資を拡充するとともに、専門能力や経験を有する高齢者雇用や女性管理職の登用を推進し、多様な人財基盤を構築する
- 取締役会がリスクと機会の実態を把握・監督できるようにガバナンス体制を強化する

「ヤマタネ2025プラン」の進捗状況② – 数値目標

2024年3月期には「ヤマタネ2025プラン」の数値目標は
1年前倒しでほぼ達成の見通し

	2023年3月期実績	2024年3月期予想		2025年3月期目標	
売上高	510億円	638億円	>>	565億円	達成
営業利益	35億円	34億円	>>	32億円	達成
EBITDA	68億円	68億円	>>	66億円	達成
ROE	4.9%	4.8%	>>	5.0%以上	進行中
配当性向	26.9%	26.7%	>>	35.0%以上	進行中

「ヤマタネ2025プラン」の進捗状況③ – 定性評価(1)

コア事業領域における着実な目標進捗が、 2025年3月期目標の一部前倒しでの達成に寄与

コア事業領域	部門	目標	進捗	判定
	物流	● 荷主やサプライチェーン上の各プレイヤーと連携・協働し、物流の効率化や高度化を目指す	新設した危険品倉庫を活用したVMI倉庫の稼働率向上や荷主のSCMへの提案等も実施	○
		● 収益力向上のため、新倉庫の開設や既存倉庫のリプレイスを行う	横浜市本牧埠頭の新倉庫建設は計画通り進捗。貨物の誘致活動にも注力しており、開設時の稼働目標は達成の見込み	○
	食品	● 米流通の各段階において品質と安全性を保ち、安心できる商品を消費者に対して安定的に供給する	精米センターの運用のデジタル化や倉庫のレイアウト変更などを実施し、生産量の増加を実現	○
		● 生産・流通コストの低減を追求し、産地との結びつきを強化する	産地との結びつきを強化するため、農業由来カーボンプレジットの生成を行っている(株)フェイガーと業務提携契約を締結	○
	情報	● DXに必要な技術を提供するパートナーとして、幅広い高度なITスキルを有する技術者を育成して顧客に供給する	・研修等の強化により、社員のマルチ言語化を推進及びプロジェクトリーダーを育成 ・常駐型ビジネスは新規顧客からの受注、既存顧客の追加保守等で拡大	○
	不動産	● 所有物件の品質(安全性・利便性・快適性・環境性)を高め、不動産価値を向上させる	老朽化が進んでいる物件や遊休不動産の建替や再開発について検討が具体化し始めた	△
		● 不動産管理をクラウドデータベースによって効率化し、プロパティマネジメント領域のビジネスを拡大する	プロパティマネジメントの専門チームを組成して活動を開始。ビジネス領域拡大に向けて一歩前進	○
	管理	● 教育・研修などの人的資本への投資を拡充するとともに、専門能力や経験を有する高齢者雇用や女性管理職の登用を推進し、多様な人財基盤を構築する	人的資本投資として階層別研修の内容の改善や対象者の拡大などを実施中。女性活躍推進に向けて働きやすい環境整備を進めている	○
		● 取締役会がリスクと機会の実態を把握・監督できるようにガバナンス体制を強化する	・取締役会のガバナンスを強化するため、委員会体制の見直しを実施。それぞれの委員会に担当役員を配置し、リスクマネジメントの実効性を高めていく ・監査等委員会設置会社への移行による取締役会の監督機能強化と取締役の業務執行のスピードアップ	○

「ヤマタネ2025プラン」の進捗状況④ – 定性評価(2)

チャレンジ領域の進捗遅れにより アップサイドポテンシャルは限定的

チャレンジ領域	部門	目標	進捗	判定
	物流	新たな事業領域への進出のため、食品量販店センター運営等に取り組む	・2024年問題を見据えたドライバー確保など足許の事業維持に注力。食品量販店センター運営の拡大については具体策を検討中 ・ニーズ増が予見される美術品保管サービスに着手。ノウハウを蓄積し本格参入に向けたインフラ投資の可否を判断	△
	食品	気候変動リスクや消費者ニーズの変化を踏まえ、新たな品種や商品の開発に着手する	シヨクカイの子会社化により、シヨクカイの持つ商品開発力と相互の販売網の活用を想定。このシナジー効果を創出していくことで、コメにおいても販売拡大や商品開発に繋げていく	△
	情報	棚卸機器レンタルのノウハウが詰まったスマホ用棚卸アプリを提供し、幅広い顧客の棚卸ニーズに応える	流通業界を中心に新規開拓及びレンタル利用顧客に対してスマホ用棚卸アプリ切り替えを推進中。既存顧客の切り替えは2025年3月期完了を目指す	△
	不動産	倉庫業併営を活かして物流不動産等の仲介ビジネスを強化する	新たに物流不動産物件を開発して拡大する戦略は物価高等で断念。グループ全体のCRE戦略の実行にリソースを活用していく。その一環として岩槻工場跡地の売却及び門前仲町駅直結ビル購入など資産の入れ替えを実施	×
	管理	本社が所在する越中島地区の再開発の方向性をまとめる	越中島地区の再開発のため社内プロジェクトチームが中心となって検討を開始。「まちづくり方針」と整合した開発を目指し、行政や社外のステークホルダーとの意見交換を開始	○

1. 企業価値向上に向けて

企業価値向上に向けた取り組み状況①：次期中期経営計画の検討を開始

当社の企業価値向上に向けて、次期中期経営計画の検討を開始

2031 VISION 物流と食の流通を通じ、
より豊かな社会づくりにチャレンジしていく



ヤマタネ2025プラン

積極的な大規模投資による
2031ビジョンの種蒔き

課題
認識

コア事業における収益性の改善

チャレンジ戦略の見直し

保有不動産の活用(CRE戦略)

バランスシートマネジメント

2023年3月期～2025年3月期



2024年度決算時に公表予定

次期中期経営計画

投資回収に向けた育成期



検討
中

部門別の収益管理・権限移譲

越中島グランドビジョンの公表

物流と食のシナジーの推進

政策保有株式の縮減

2026年3月期～2028年3月期



長期ビジョン最終

投資の回収・収益刈り取り

次の100年に向けた
企業価値及び
株主価値の最大化

物流と食の
シナジーの実現

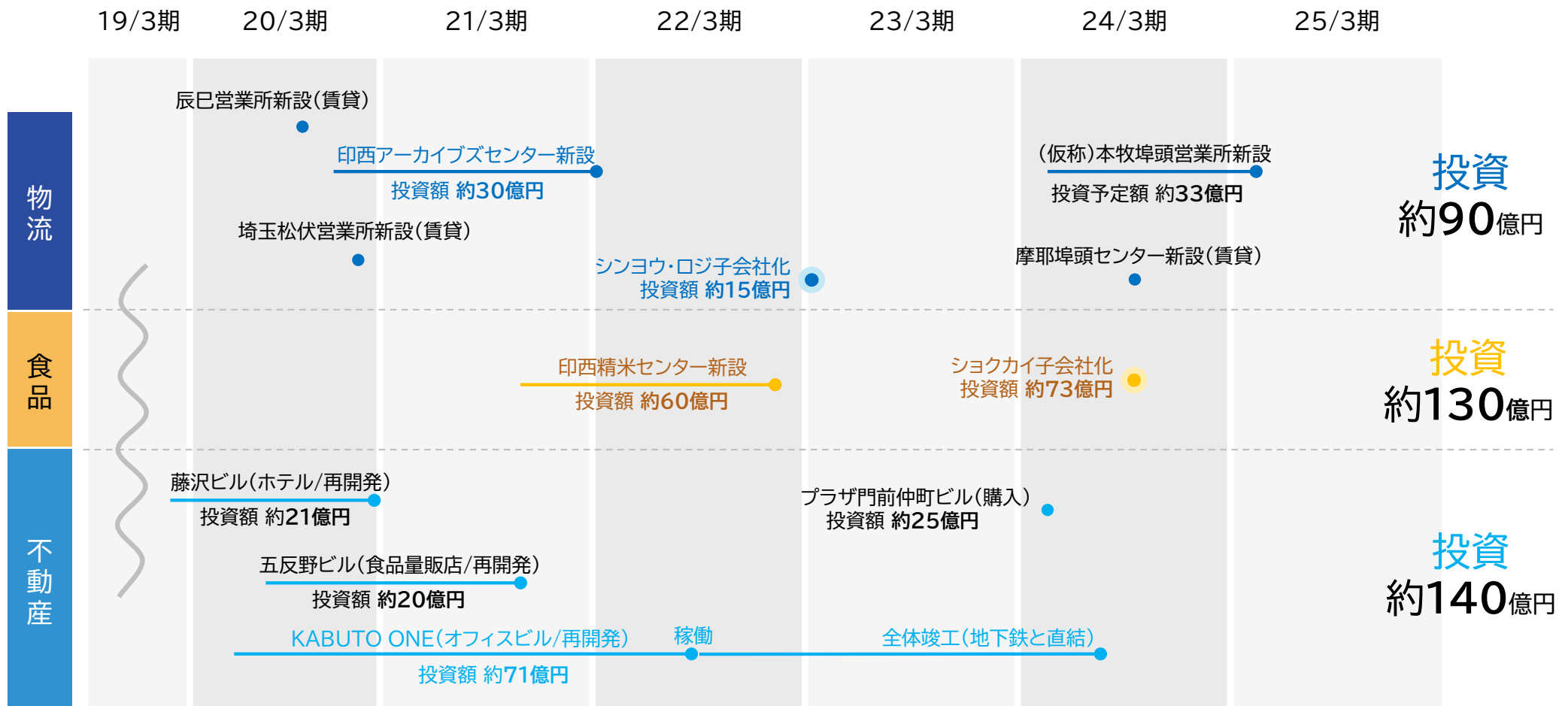


2029年3月期～2031年3月期

1. 企業価値向上に向けて

企業価値向上に向けた取り組み状況②：長期ビジョンの実現に向けた投資実績

印西事業所、「KABUTO ONE」、シンヨウ・ロジとショクカイ子会社化を中心に、大規模投資で潜在成長力を大きく引き上げ



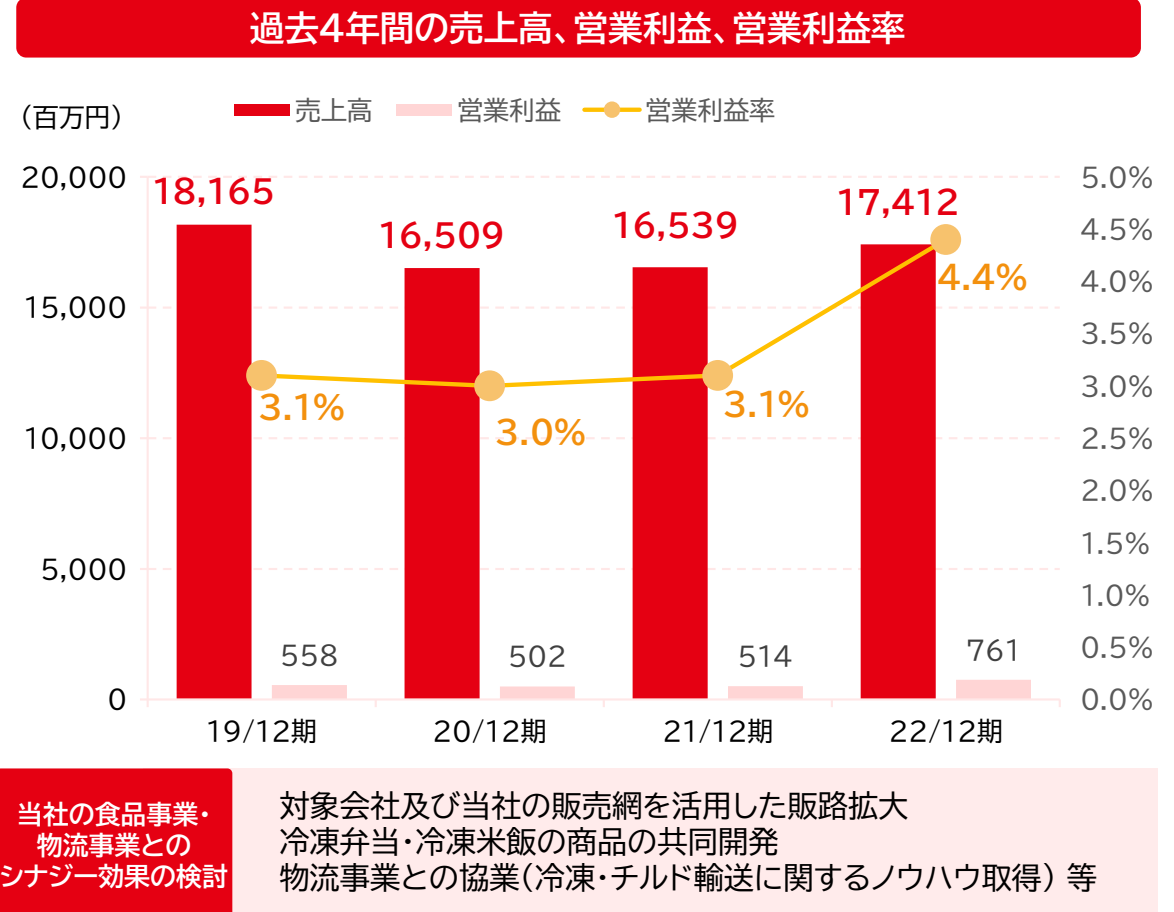
1. 企業価値向上に向けて

企業価値向上に向けた取り組み状況③：食品事業におけるショクカイの買収

ショクカイの買収により、食品事業の収益改善を実現
次期中期経営計画に向けて物流事業とのシナジーを模索



会社名	株式会社ショクカイ
本社	東京都台東区東上野日本生命東上野ビル
設立	1991年3月
事業内容	業務用食品卸売(弁当給食・デリカ総菜向け)
資本金	90百万円
連結業績	売上高17,412百万円、営業利益761百万円
従業員数	72名
事業の 特色	・ 弁当給食の卸売業界におけるトップシェア・プレーヤー。創業来、約320社のメーカー・食品加工会社と互恵的な関係性を構築。直接仕入による中間マージンカットで高い価格競争力を維持 ・ 弁当給食事業に特化した顧客基盤(弁当給食約1,200事業所、デリカ約380事業所)を持ち、効率的な営業体制による取引の安定性を確保



再開発検討対象エリア



引用元:Google社「Google マップ、Google Earth」

現在の不動産情報

	竣工	敷地面積(㎡)	建物延面積(㎡)	現在の用途
ヤマタネビル	1989年	4,126	12,930	オフィス
ヤマタネビル新館	2012年	3,853	12,208	オフィス
深川営業所	1981年	28,674	60,255	オフィス・倉庫

西立川の更地の活用・日本橋小網町ビルの建替え(用途未定)

1. 企業価値向上に向けて

企業価値向上に向けた取り組み状況⑤：物流事業 横浜港本牧埠頭の新物流センター建設

新物流センターの建設により物流事業のキャパシティを拡張

【関東地方の主要な物流センター】



市川営業所

延床面積：1万3,057坪
稼働率：84.2%



深川営業所

延床面積：1万7,579坪
稼働率：98.8%



辰巳営業所

延床面積：7,135坪
稼働率：97.0%



大井埠頭営業所

延床面積：5,430坪
稼働率：98.2%



大黒埠頭営業所

延床面積：7,669坪
稼働率：99.2%



(仮称)本牧埠頭営業所(2024年6月竣工予定)

延床面積：5,924坪

本牧埠頭は国際戦略港湾である横浜港の約6割のコンテナを取扱う主力港。今後、輸出入貨物量の増加が見込まれる中で輸出入貨物取扱いや流通加工・小口配送等の拠点として機能

引用元：(C) OpenStreetMap contributors

INDEX

1	企業価値向上に向けて	… P2
2	2024年3月期第2四半期 決算概要	… P11
	－ 連結決算概要	… P12
	－ セグメント別決算概要	… P14
	－ 連結財政状況	… P19
	－ 連結キャッシュフロー	… P20
3	2024年3月期 決算見通し	… P22

連結決算概要

売上高

前年同期比

8.7%増

物流部門における海外引越の取扱いの増加、食品部門における販売数量の増加

営業利益

前年同期比

6.0%減

人件費の増加、物流部門における外注コストの増加、M&Aに伴う費用計上等

経常利益

前年同期比

21.5%減

M&Aに伴うシンジケートローン手数料の計上等

親会社株主に帰属する 四半期純利益

前年同期比

24.7%増

遊休不動産の売却による固定資産売却益等

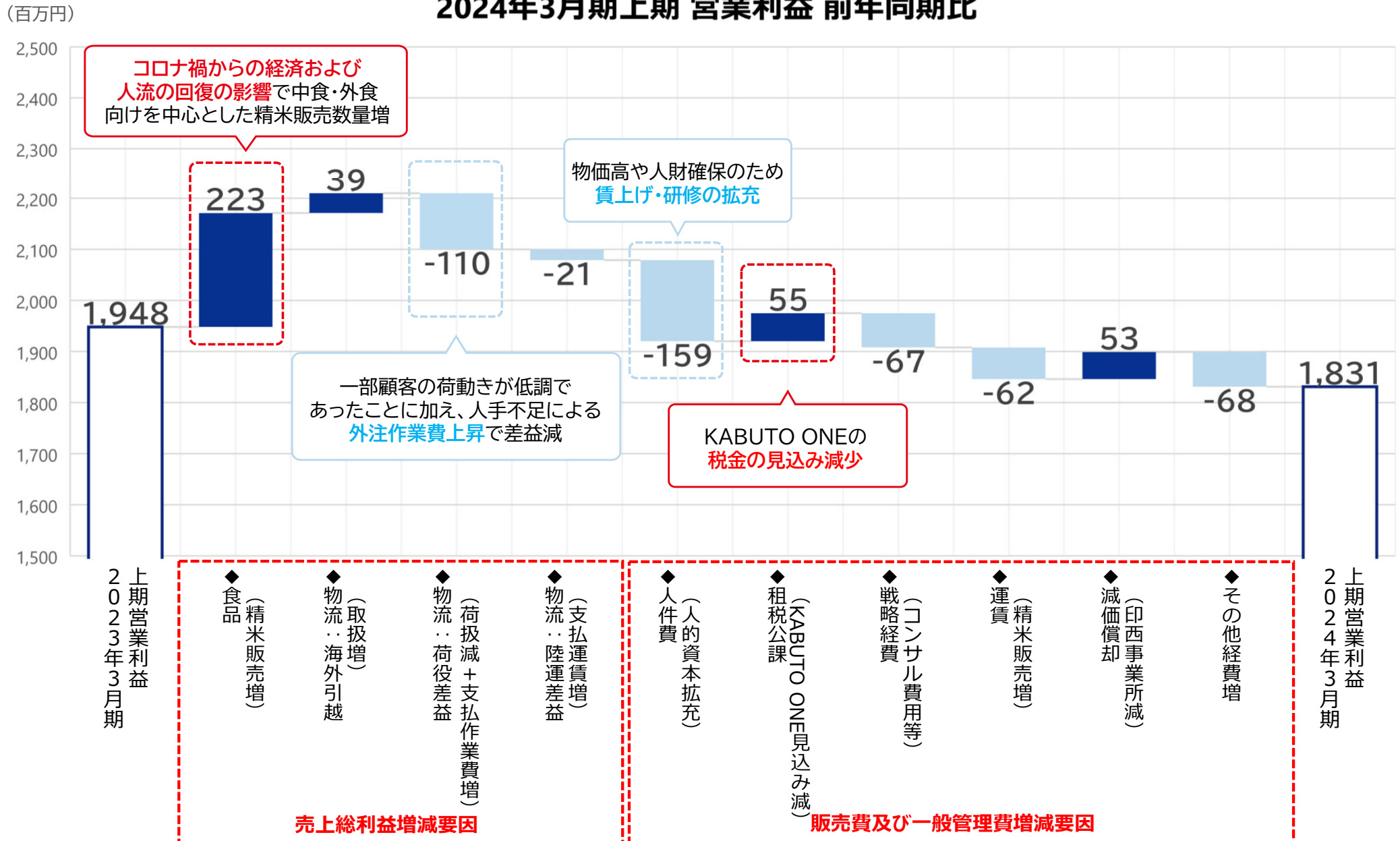
単位:百万円

	23年3月期上期実績	24年3月期上期実績	増減(前年同期比)
売上高	25,440	27,663	2,223
営業利益	1,948	1,831	▲ 117
営業利益率	7.7%	6.6%	—
経常利益	1,909	1,497	▲ 411
EBITDA	3,584	3,155	▲ 429
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,135	1,416	280

2. 2024年3月期第2四半期 決算概要

営業利益増減(前年同期比)

2024年3月期上期 営業利益 前年同期比



セグメント別決算概要

単位:百万円

事業セグメント		23/3期上期	24/3期上期	前年同期比	増減率
物 流	売上高	12,192	12,369	177	1.5%
	営業利益	1,365	1,198	▲167	▲12.2%
食 品	売上高	10,380	12,350	1,970	19.0%
	営業利益	24	174	150	623.6%
情 報	売上高	807	868	61	7.6%
	営業利益	41	55	13	32.5%
不動産	売上高	2,060	2,074	13	0.7%
	営業利益	1,044	1,107	63	6.0%
調 整	売上高	—	—	—	—
	営業利益	▲528	▲705	▲177	▲33.5%
合 計	売上高	25,440	27,663	2,223	8.7%
	営業利益	1,948	1,831	▲117	▲6.0%

物流セグメント

増収減益

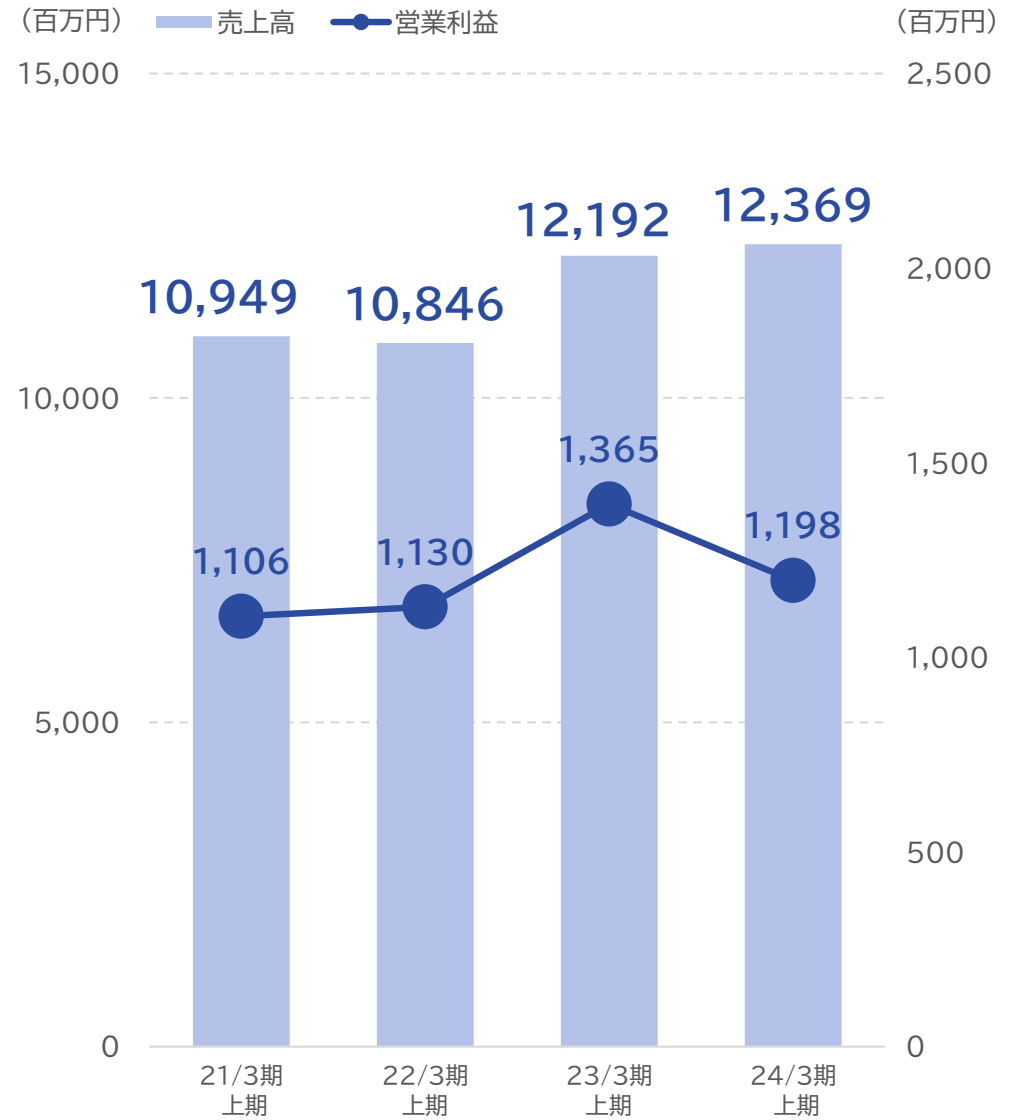
ポイント

売上高：国際業務における海外引越を中心とした取扱件数が前年同期を上回ったことにより前年同期比1.5%増

営業利益：コスト面において庸車費用や外注作業費用等が増加したことにより、前年同期比12.2%減

■ **売上高** **12,369 百万円**
前年同期比(増減)+1.5% +177 百万円

■ **営業利益** **1,198 百万円**
前年同期比(増減)▲12.2% ▲167百万円



食品セグメント

増収増益

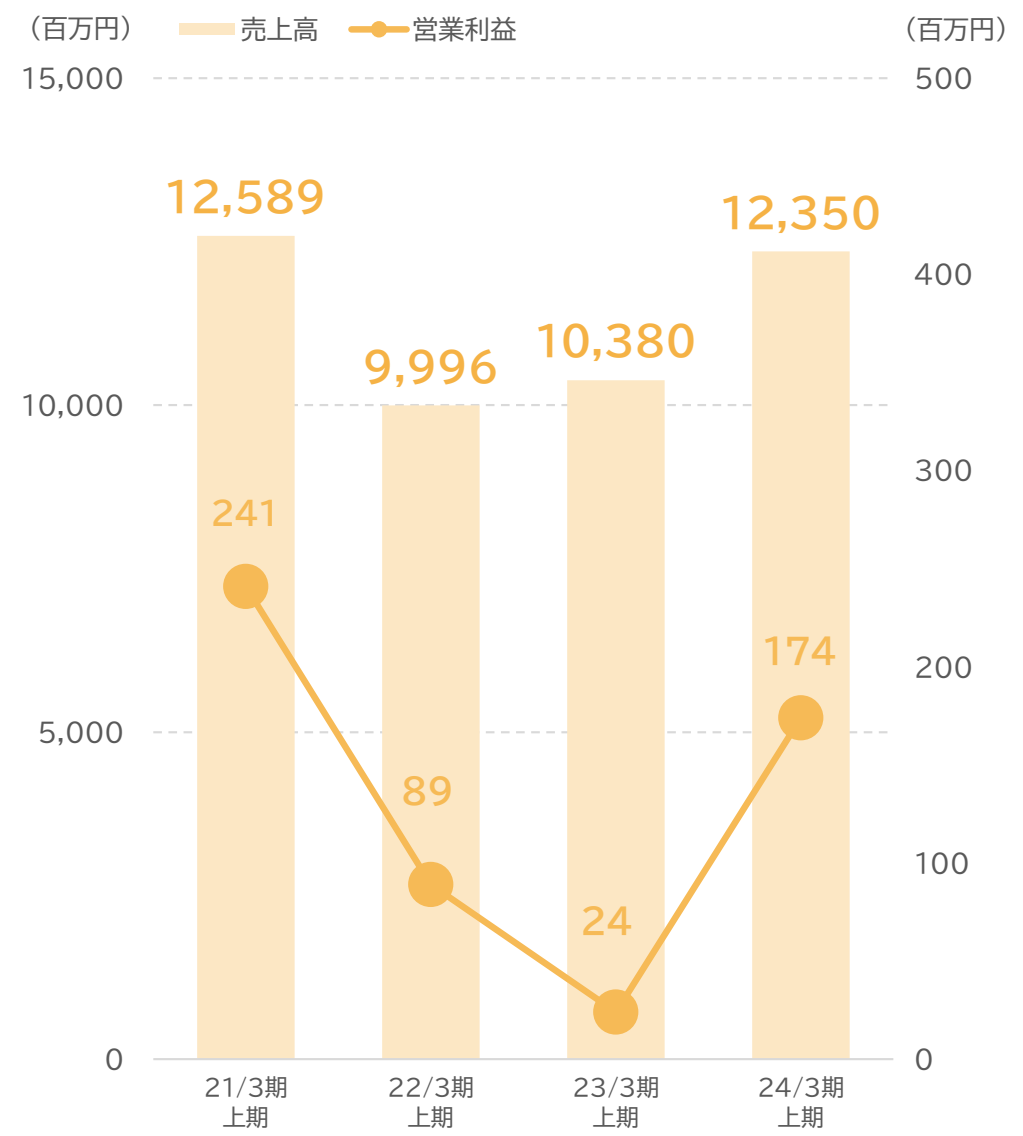
ポイント

売上高：新型コロナウイルス禍からの経済回復を受けて中食や外食向けの需要が復調。精米販売量が増加したことで前年同期比19.0%増

営業利益：印西精米センターの減価償却費が減少したことや太陽光発電システム活用による動力費抑制等により前年同期比623.6%増

■ **売上高** **12,350 百万円**
前年同期比(増減)+19.0% +1,970 百万円

■ **営業利益** **174 百万円**
前年同期比(増減)+623.6% +150百万円



情報セグメント

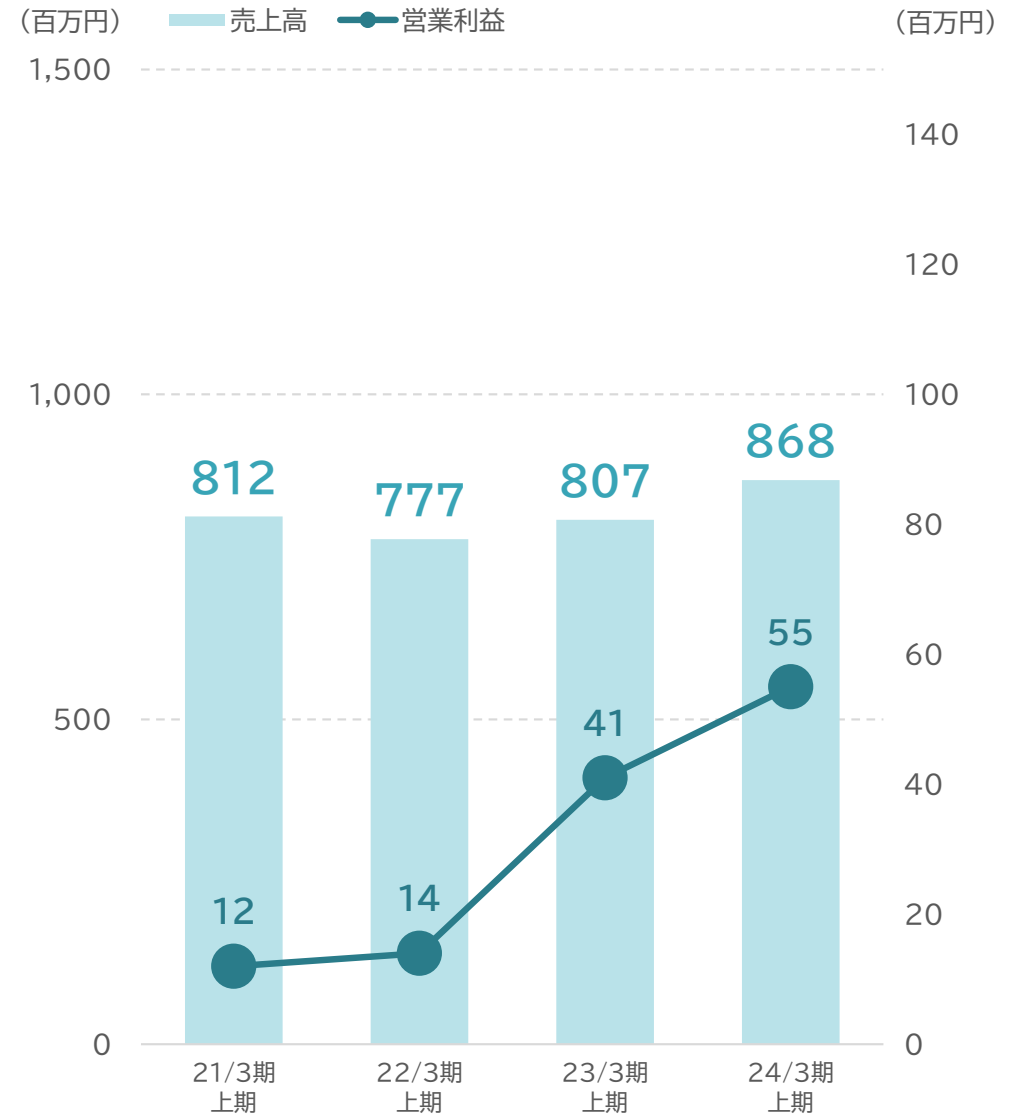
増収増益

ポイント

売上高：汎用機基盤の開発、運用業務は堅調に推移。顧客のインボイス対応へのシステム開発請負案件等により前年同期比7.6%増

営業利益：同要因により前年同期比32.5%増

■ 売上高	868 百万円
前年同期比(増減) + 7.6%	+61 百万円
■ 営業利益	55 百万円
前年同期比(増減) + 32.5%	+13 百万円



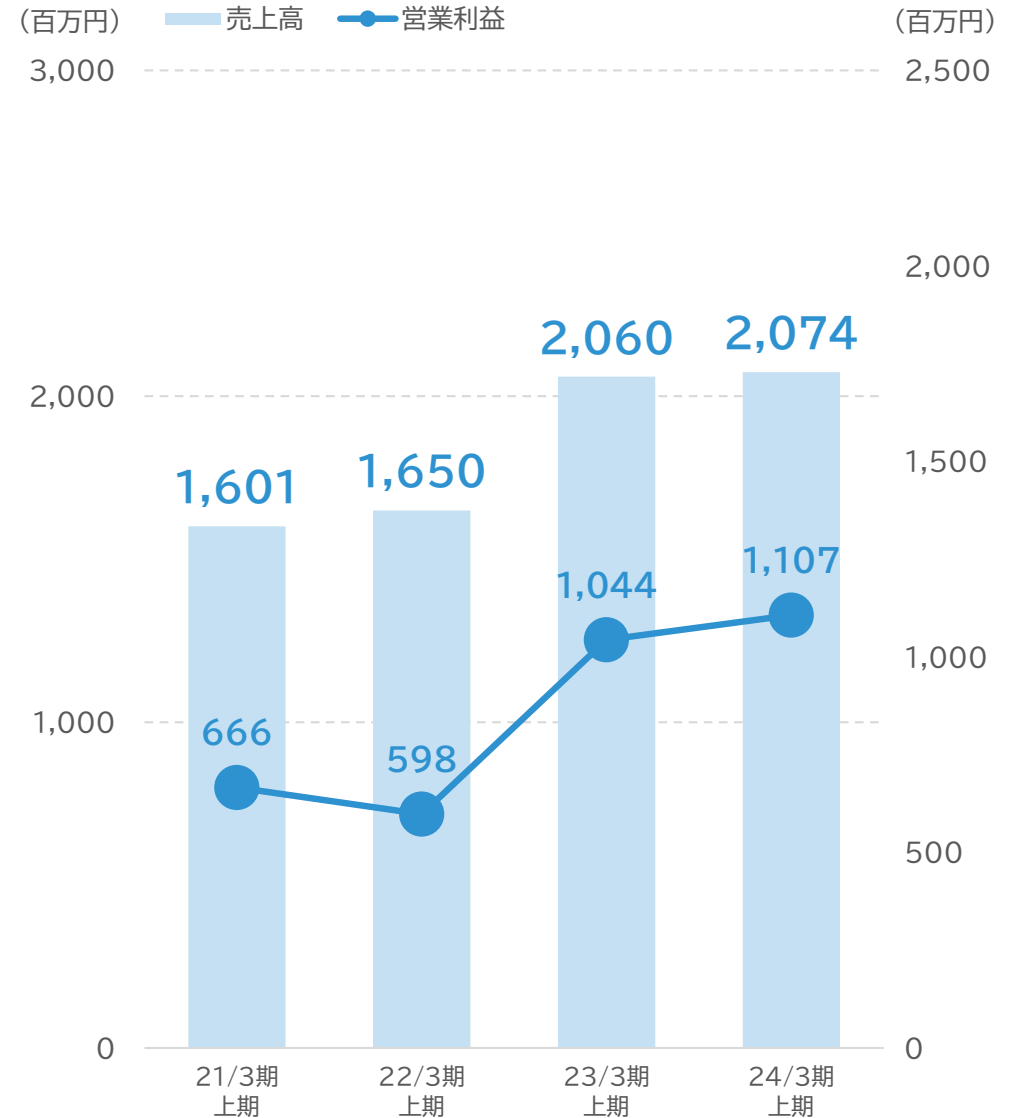
不動産セグメント

増収増益 ポイント

売上高：賃貸用不動産を新規取得したこと等により前年同期比0.7%増

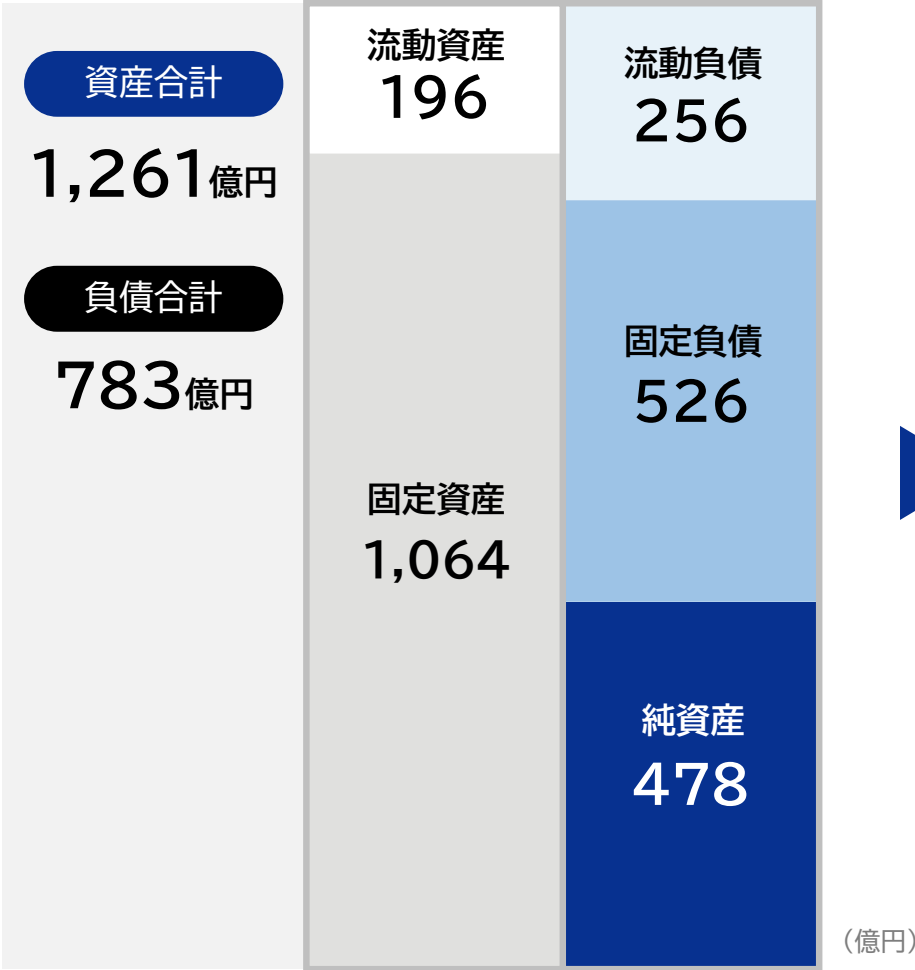
営業利益：KABUTO ONEの不動産取得税が減少したこと等により前年同期比6.0%増

■ 売上高	2,074 百万円
前年同期比(増減) + 0.7%	+13 百万円
■ 営業利益	1,107 百万円
前年同期比(増減) + 6.0%	+63 百万円

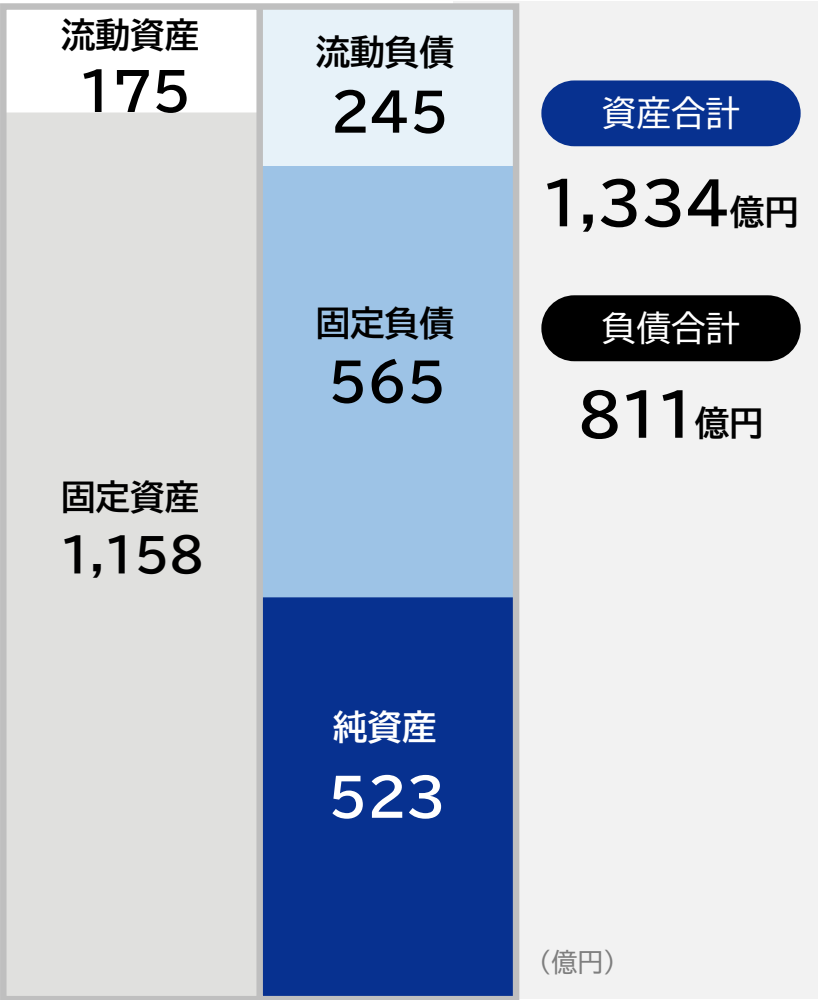


連結財政状況

2023年3月末



2023年9月末



2. 2024年3月期第2四半期 決算概要

連結キャッシュフロー

単位:百万円

	23/3期上期	24/3期上期	前年同期比
期首残高	7,459	8,415	955
営業C/F	4,090	2,111	▲1,978
投資C/F	▲2,112	▲7,199	▲5,086
財務C/F	▲2,233	2,620	4,854
期末残高	7,204	5,948	▲1,255
増減額	▲255	▲2,466	▲2,211

INDEX

1	企業価値向上に向けて	… P2
2	2024年3月期第2四半期 決算概要	… P11
3	2024年3月期 決算見通し	… P22
	— 連結決算見通し	… P22
	— セグメント別決算見通し	… P23
	— 配当金の状況	… P28
	— 参考	… P29
	— Appendix	… P30

3. 2024年3月期 決算見通し

連結決算見通し

- 2023年10月2日にシヨクカイの全株式を取得し子会社化したこと、また食品部門において量販店を中心に精米販売が好調に推移していること等を要因に、**売上高及び営業利益においては業績予想を上方修正**
- 他方、第2四半期連結会計期間で計上したM&Aに係る資金調達におけるシンジケートローン手数料等により営業外費用の増加が見込まれることから、**経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益については業績予想を据え置き**

単位:百万円	23年3月期上期実績	24年3月期上期実績	前年同期比	24年3月期通期見通し	進捗率
売上高	25,440	27,663	2,223	63,800	43.4%
営業利益	1,948	1,831	▲ 117	3,400	53.9%
営業利益率	7.7%	6.6%	—	5.3%	—
経常利益	1,909	1,497	▲ 411	3,100	48.3%
EBITDA	3,584	3,155	▲ 429	6,833	46.2%
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	1,135	1,416	280	2,200	64.4%

3. 2024年3月期 決算見通し

セグメント別決算見通し

物流

海外引越業務の取扱増加や関西での新センター稼働により増収を見込む一方で、人件費や外注費等の増加により、減益の見通し

食品

2023年10月2日にシヨクカイを子会社化したこと及び量販店を中心に精米販売が好調に推移していること等により増収増益を見込む

情報

売上高は前年並みを見込む一方で、社内システム刷新に向けた費用増で、減益の見通し

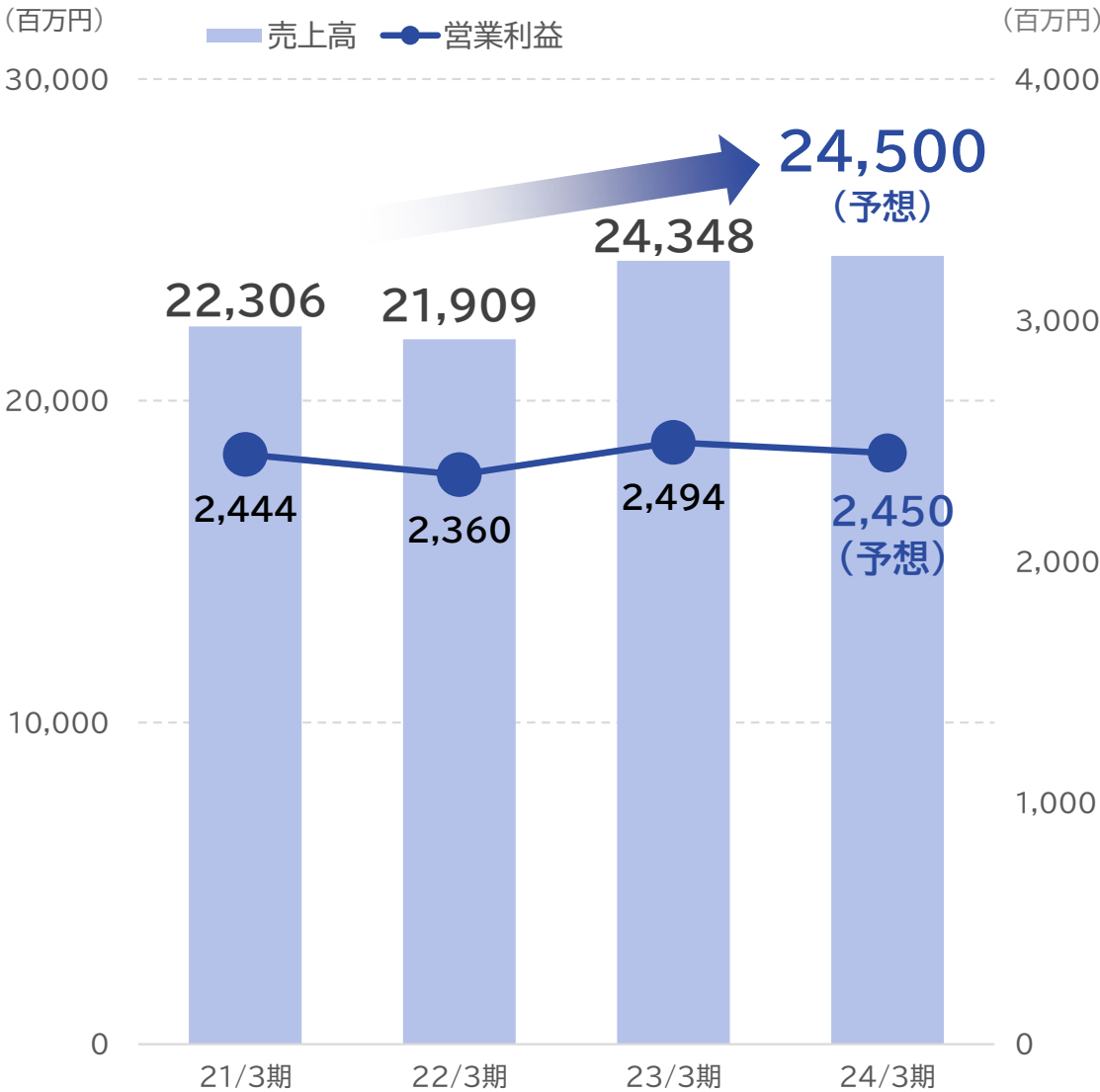
不動産

KABUTO ONEの不動産取得税が見込みより減少したことや新規取得の賃貸用不動産が業績に寄与し増収増益を見込む

単位:百万円

事業セグメント		23/3期実績	24/3期予想	前期比	増減率
物流	売上高	24,348	24,500	151	0.6%
	営業利益	2,494	2,450	▲44	▲1.8%
食品	売上高	20,966	33,400	12,433	59.3%
	営業利益	74	830	755	1,012.4%
情報	売上高	1,693	1,700	6	0.4%
	営業利益	102	80	▲22	▲22.0%
不動産	売上高	4,081	4,200	118	2.9%
	営業利益	2,037	2,050	12	0.6%
調整	売上高	—	—	—	—
	営業利益	▲1,121	▲2,010	▲888	▲79.3%
合計	売上高	51,090	63,800	12,710	24.9%
	営業利益	3,588	3,400	▲188	▲5.2%

物流セグメント



■ 売上高(予想)

24,500 百万円

前年同期比(増減)

+0.6%

151 百万円

■ 営業利益(予想)

2,450 百万円

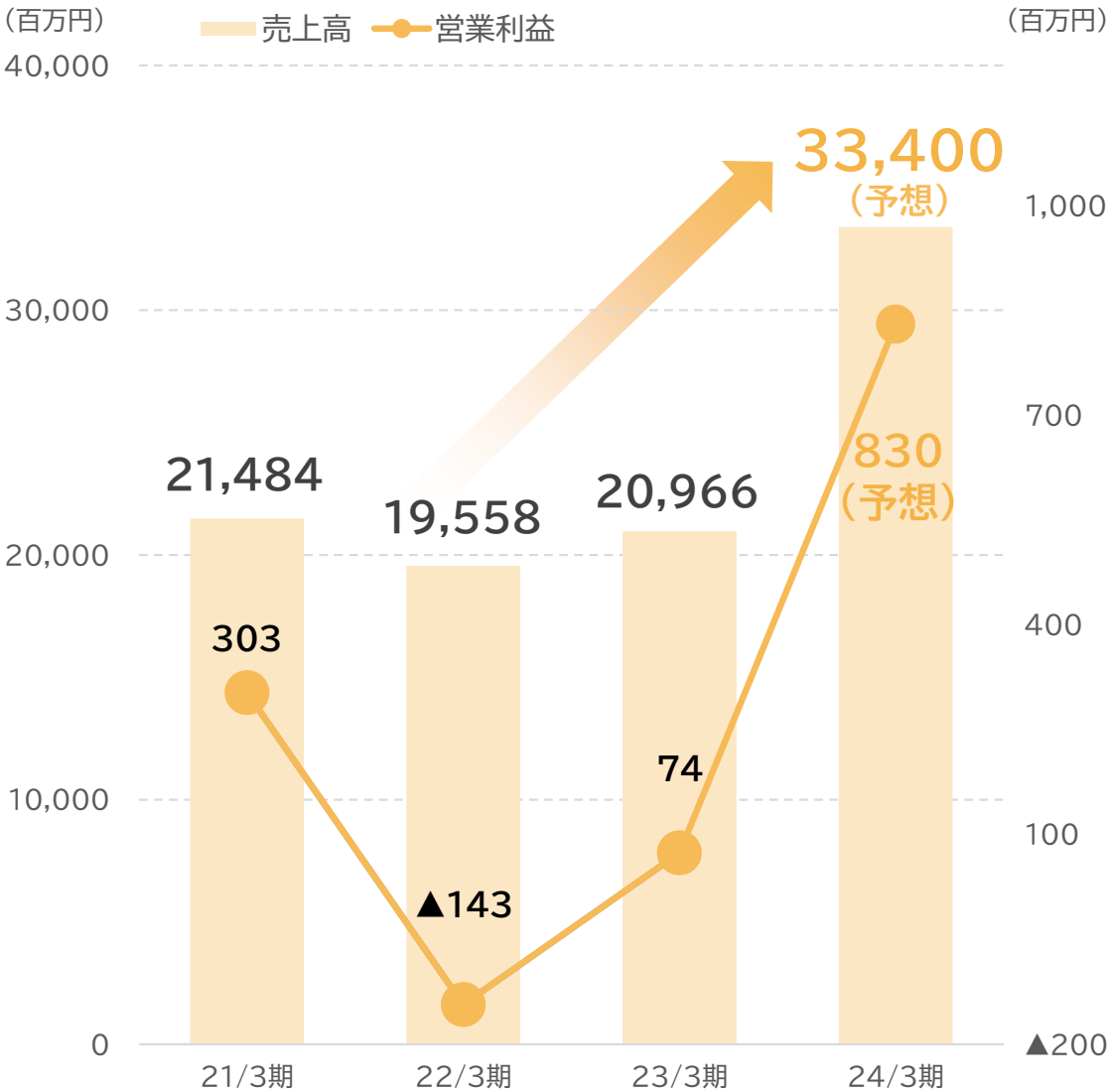
前年同期比(増減)

▲1.8%

▲44 百万円

3. 2024年3月期 決算見通し

食品セグメント



■ 売上高(予想)

33,400 百万円

前年同期比(増減)

+59.3% **12,433 百万円**

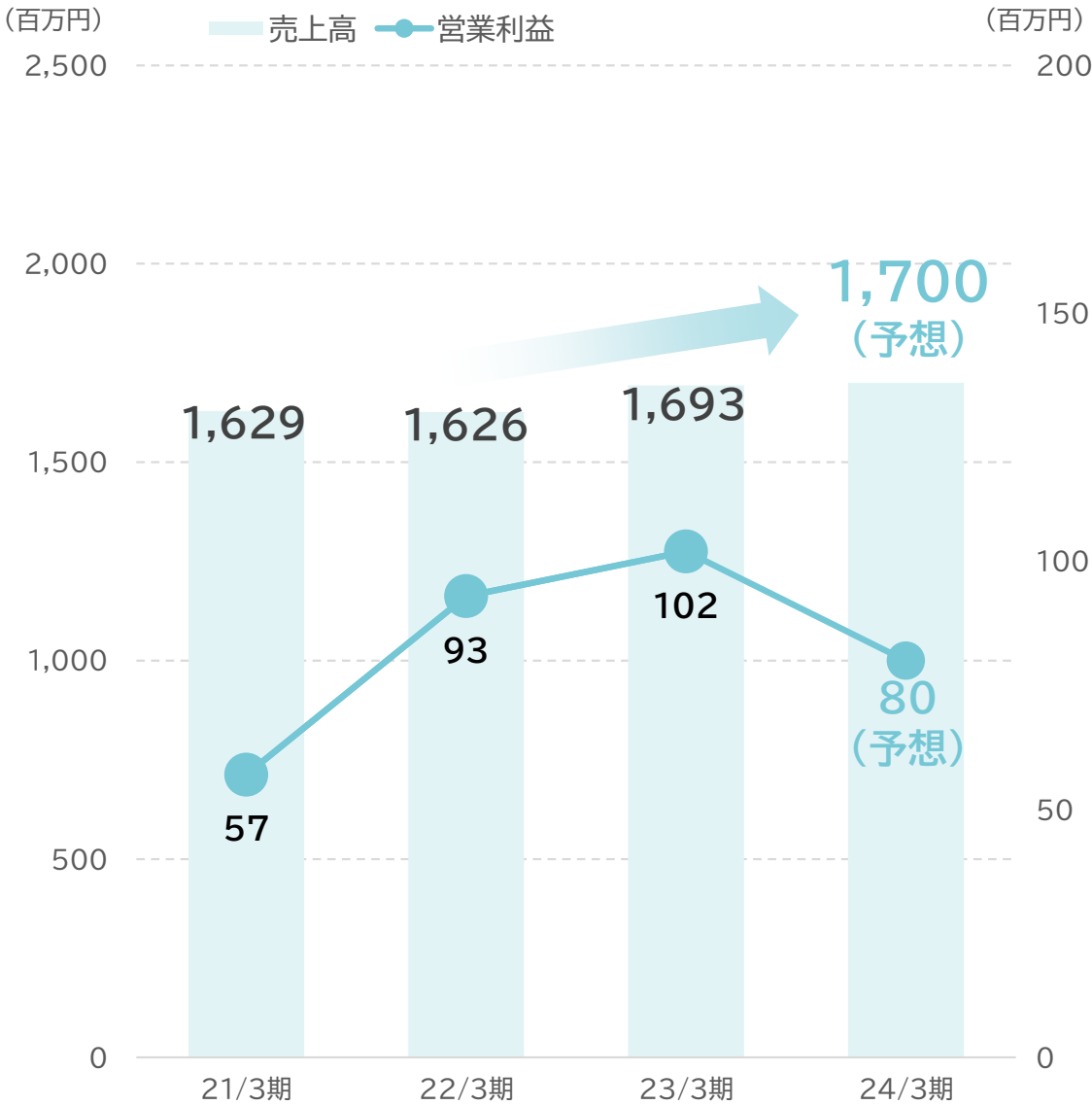
■ 営業利益(予想)

830 百万円

前年同期比(増減)

+1,012.4% **755 百万円**

情報セグメント



■ 売上高(予想)

1,700 百万円

前年同期比(増減)

+0.4%

6 百万円

■ 営業利益(予想)

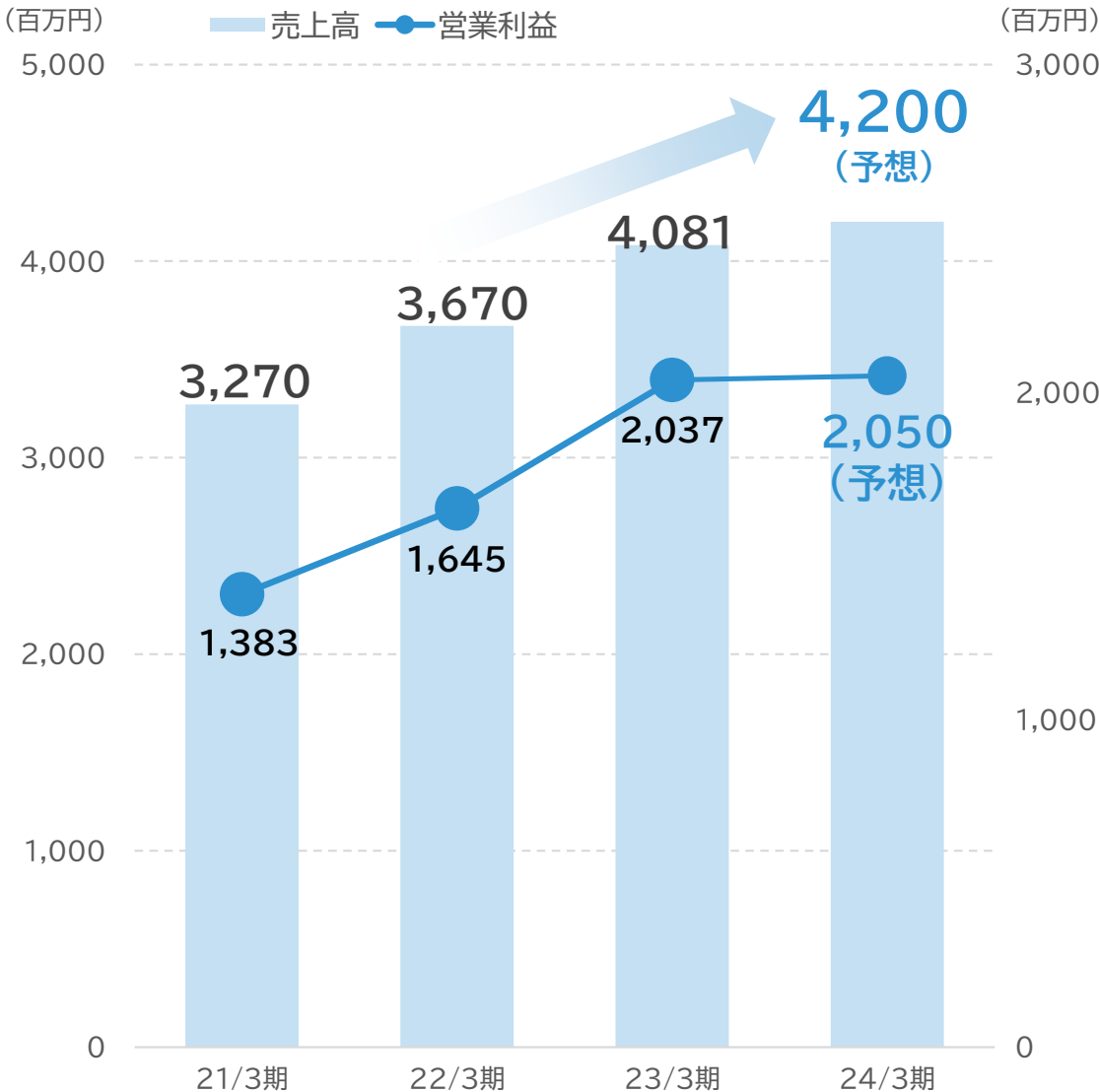
80 百万円

前年同期比(増減)

▲22.0%

▲22 百万円

不動産セグメント



■ 売上高(予想)

4,200 百万円

前年同期比(増減)

+2.9%

118 百万円

■ 営業利益(予想)

2,050 百万円

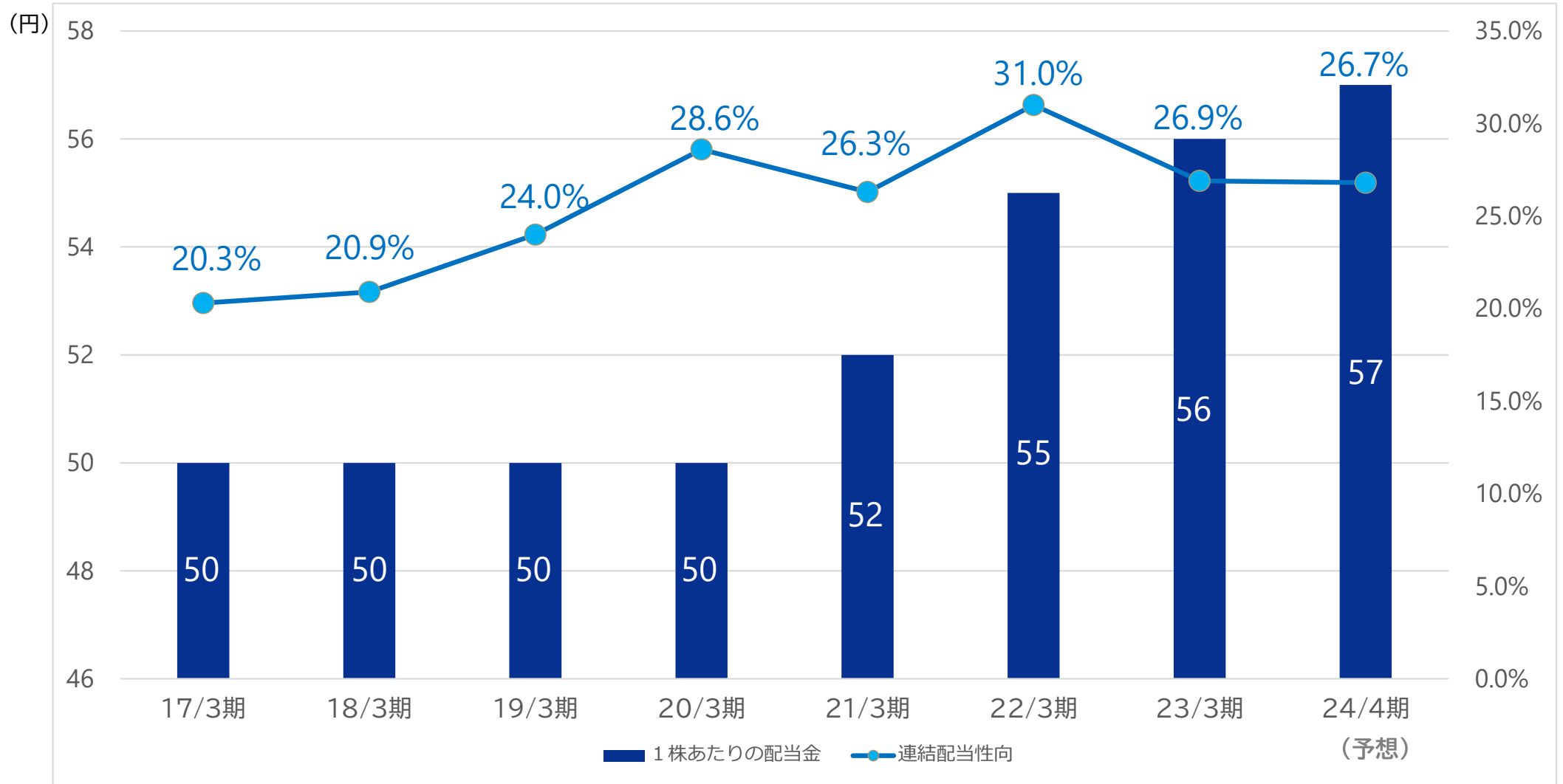
前年同期比(増減)

+0.6%

12 百万円

配当金の状況

当期の中間配当は、1株につき25円とすることを決議
 期末配当は現時点において1株につき32円を予想(年間配当額は57円を予想)



参考：株主優待制度の変更(拡充)

当社は、2024年3月末基準日より、 株主優待制度を変更することといたしました

3月末基準

優待内容

株数(株)	株主優待商品
300株以上	ジュース(2本:1,100円相当)または棚田米を原料とした日本酒(一合瓶2本)の選択制
500株以上	ジュース(2本:1,400円相当)または棚田米を原料とした日本酒(四合瓶1本)の選択制
1,000株以上	ジュース(3本:1,850円相当)または棚田米を原料とした日本酒(四合瓶2本)の選択制

9月末基準

優待内容

株数(株)	株主優待商品
100株以上	山種美術館カレンダー
300株以上	山種美術館カレンダー、厳選こだわり米2kg
500株以上	山種美術館カレンダー、厳選こだわり米5kg
1,000株以上	山種美術館カレンダー、棚田米10kg、田植え・稲刈り体験(※申込制)



星峠の棚田(新潟県十日町市、2023年5月撮影)

この度、株主優待制度を変更するにあたり、当社は新潟県十日町市にある星峠の棚田オーナーとなりました。

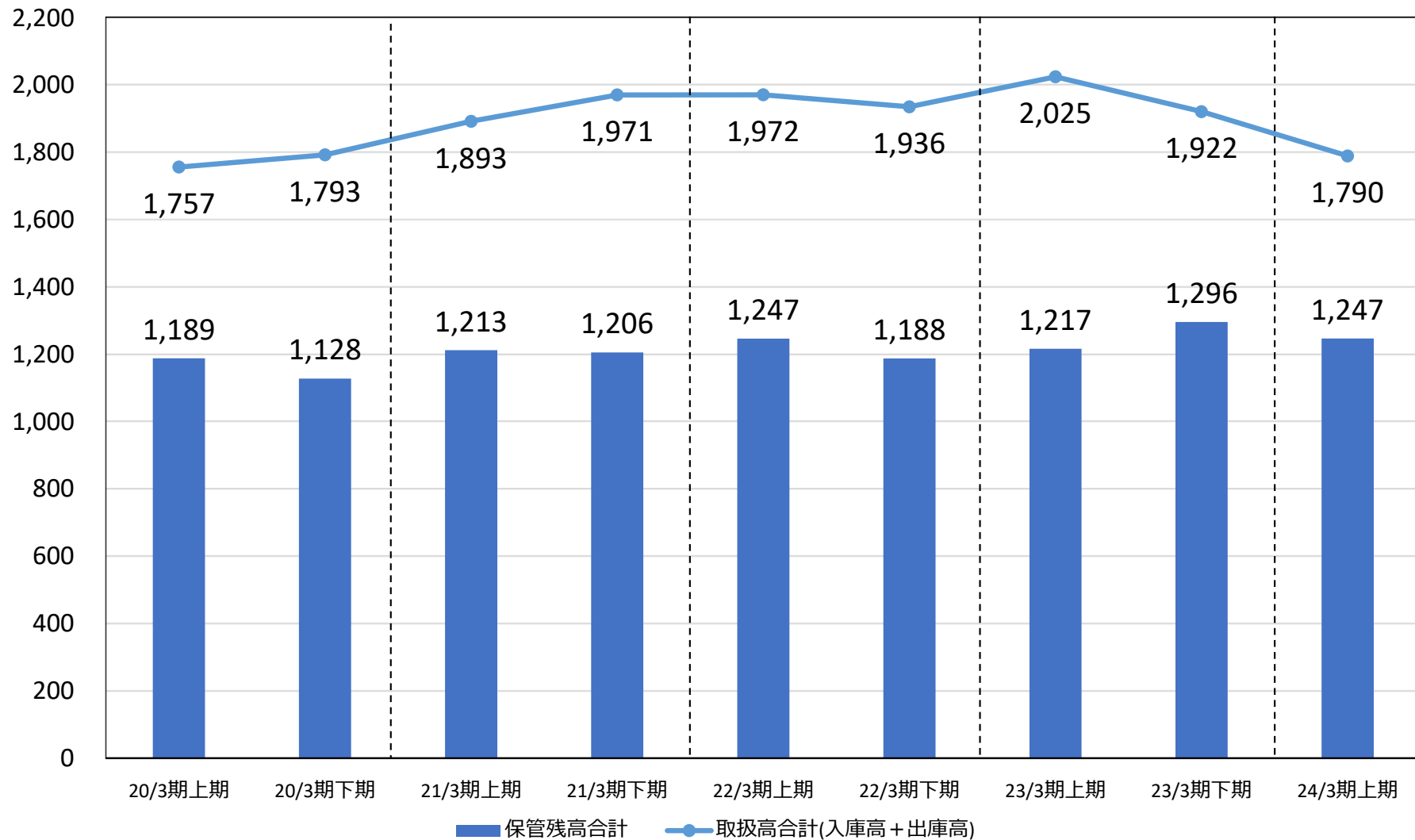
日本の農業の象徴である棚田は、農産物の供給にとどまらず、国土の保全、水源の涵養など、様々な機能を有していますが、経済合理性の低さや担い手不足などの問題などにより、荒廃の危機に瀕しています。

そうした現状を踏まえ、新しい株主優待制度を導入し、株主の皆様と共に棚田保全の活動をスタートします。当社株式を1,000株以上保有していただいている株主様には星峠で収穫されたおコメを10kgお届けいたします。また、ご希望の方は5月に田植え、9月に稲刈りを体験いただくことが可能です。当社は取組み重点テーマとして掲げている「地域コミュニティ及び生産地と農業の発展」を実現すべく、今後も取り組んでまいります。

※ 新株主優待制度の詳細につきましては、当社HP (<https://www.yamatane.co.jp/>) をご覧ください

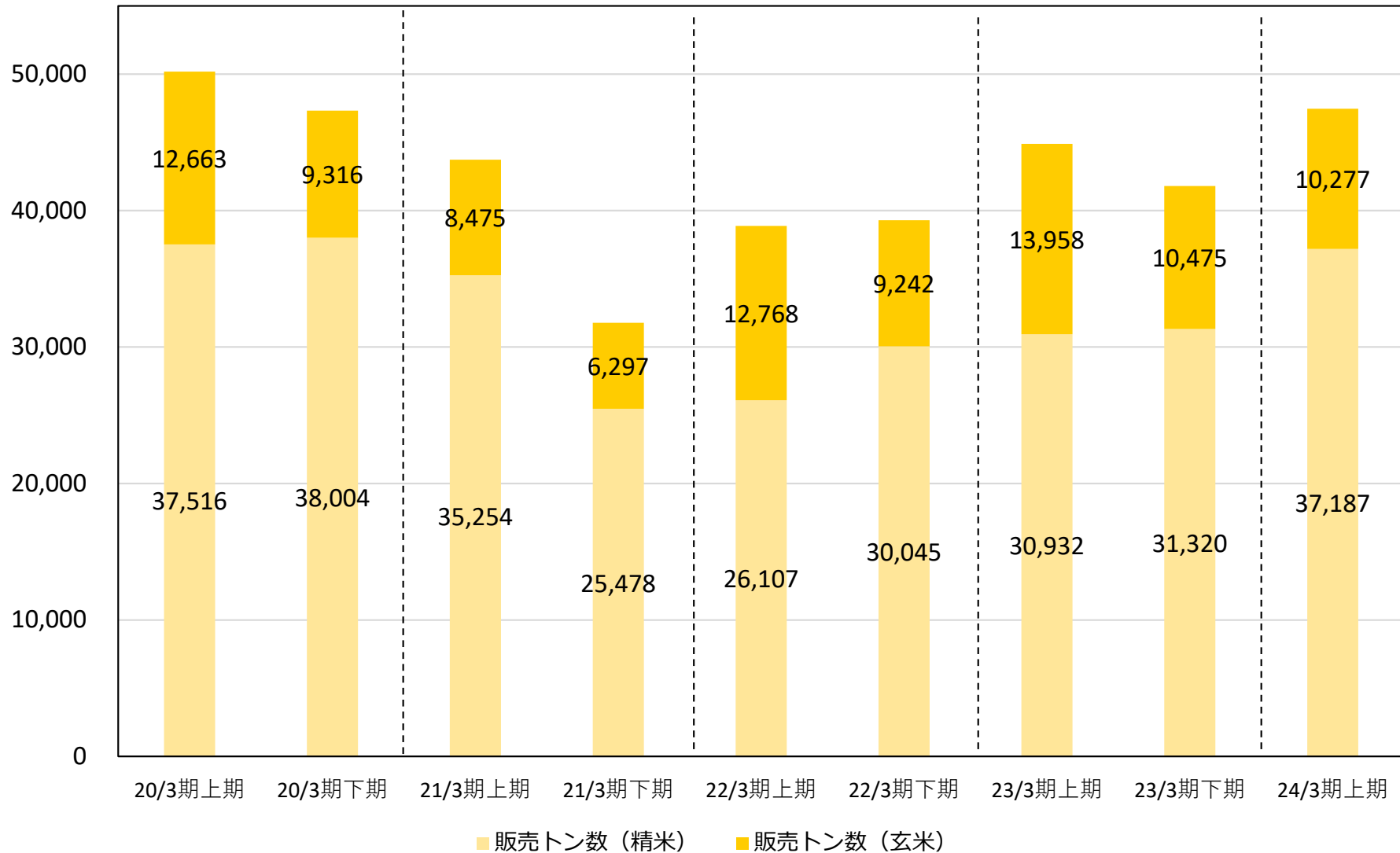
Appendix : 【物流】保管残高合計/取扱高合計

(単位:千トン)



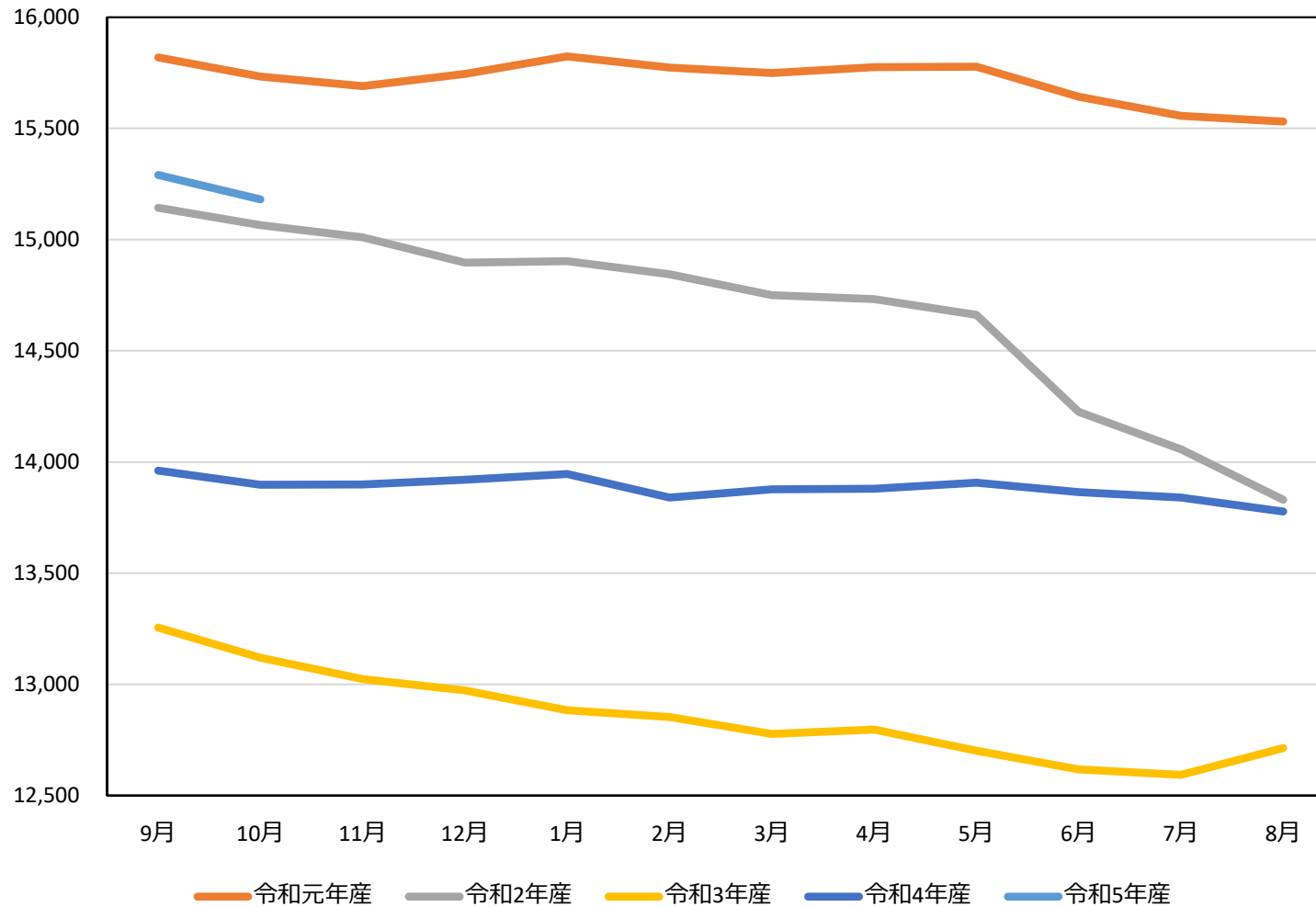
Appendix ：【食品】販売数量(精米/玄米)

(単位:トン)



Appendix：【食品】コメの年産別相対取引価格

(単位:円/60キ口)



平均価格	
令和元年産	15,716
令和2年産	14,616
令和3年産	12,835
令和4年産	13,865
令和5年産	15,177

ご留意事項

- 本資料は、(株)ヤマタネの業績動向及び事業内容について、(株)ヤマタネによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しております。
- これらの将来の展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- (株)ヤマタネの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来の展望と異なる場合がございます。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、本資料開示時点(2023年11月29日現在)において利用可能な情報に基づいて(株)ヤマタネによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。

お問合せ

T E L :03(3820)1111(代表)

E-mail :kikaku@yamatane.co.jp